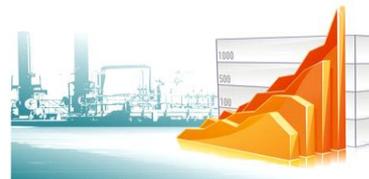


# ぎふ経済レポート



平成29年3月分  
岐阜県商工労働部

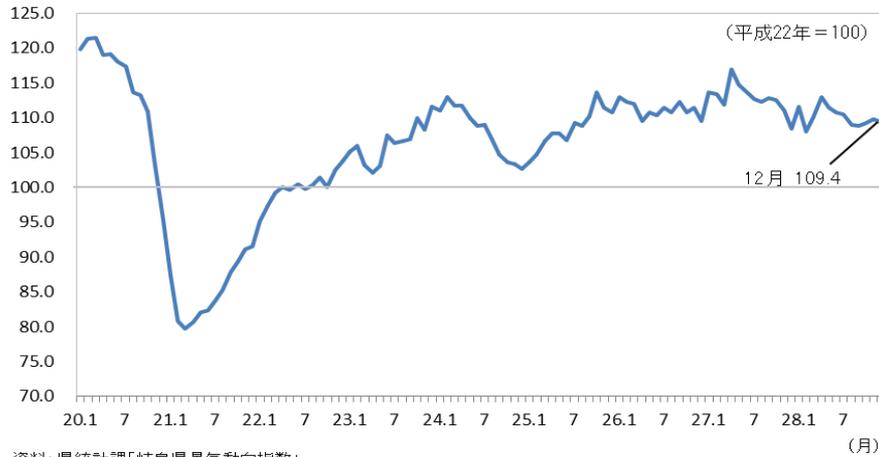
※企業等へのヒアリングは 3月22日～24日を中心に実施し、4月10日に作成。

# 景気動向

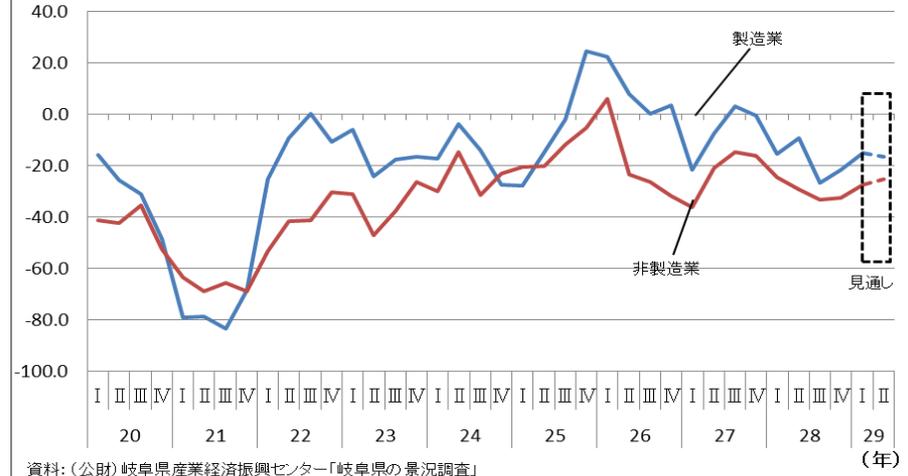
- 12月の景気動向指数(一致指数)は、109.4と前月より0.4ポイント下降した。
- 2月の県内中小企業の景況感D Iは、マイナス26と前月比横ばいとなった。

- 平成29年1-3月期の売上高DIは、製造業が6.5ポイント増加、非製造業も5.4ポイントの増加となる。一方、採算DIは、製造業が12.4ポイント減少、非製造業も0.9ポイントの減少となる。

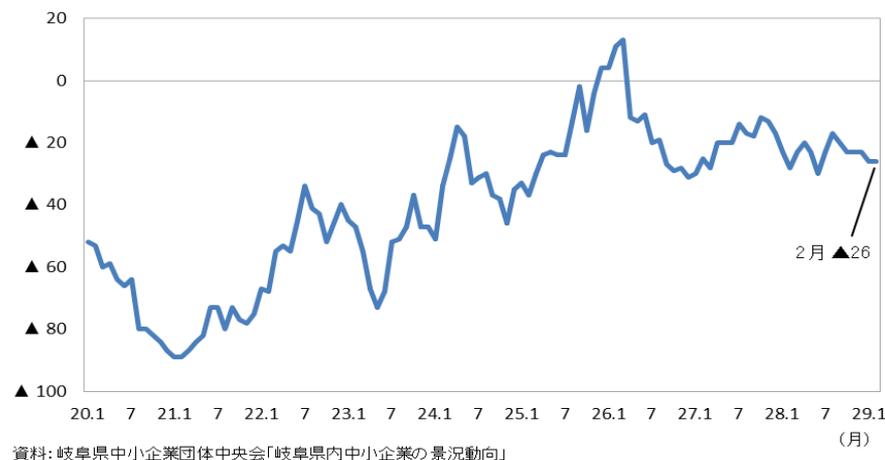
岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業(建設業)の採算DI(増加-減少)の推移

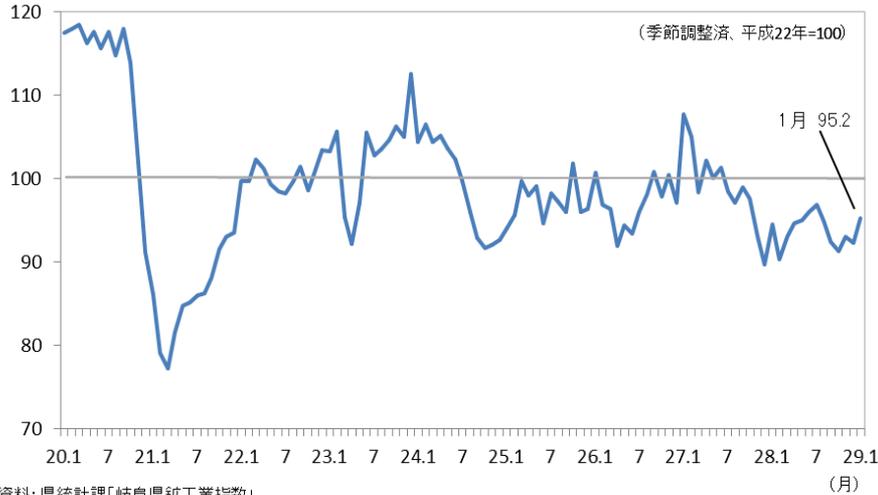


# 製造業

- 1月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、前月比2.9ポイント増加し、95.2となる。
- 電気機械、はん用機械の増加がプラス寄与し、全体として6ヶ月ぶりの高水準となる。

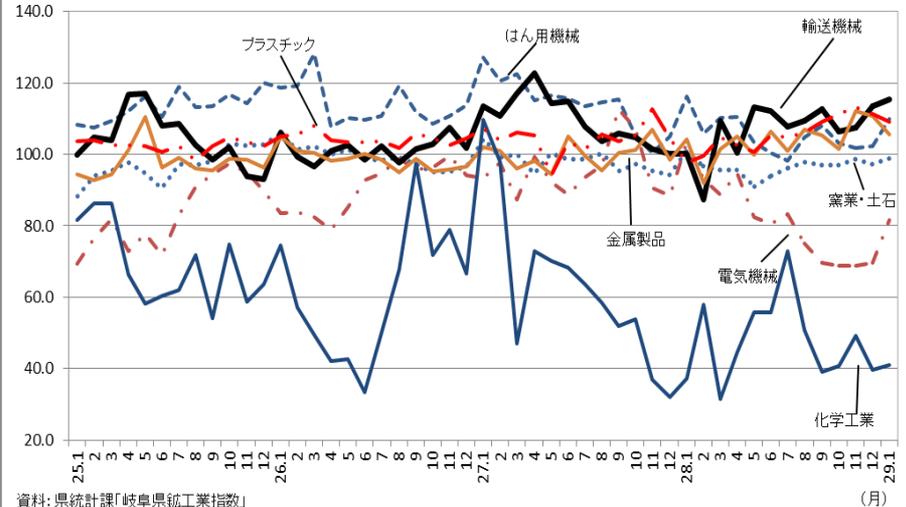
- 1月の主な産業の指数は、金属製品、プラスチックを除き、その他産業で前月より上昇。
- 電気機械は、前月比16.9ポイントの増加と大幅な改善傾向が見られる。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



## 現場の動き

- ◆ 業界全体として昨年同月比で売上は堅調に推移。(輸送用機械)
- ◆ 自動車関連の売上が6.0%増、中国の景況が底を打った感があり油圧・建機は14.5%増加。(輸送用機械)
- ◆ 中国向け建機メーカー向けの油圧部品が急激に増加。また、資源価格の上昇により世界中で鉱山向けの建設機械の売上が伸びており、受注量・売上額ともに前年比増加。(生産用機械)
- ◆ 中国関係の好況により前年同月比20%程度増加している。当面は納期に追われる状況。(はん用機械)
- ◆ 売上・受注ともに対前期比20%程度減少した状況が続いていたが、若干上向きつつある。(金属製品)
- ◆ 販売単価の引き下げにより売上高は対前年同月比で5%の減少。(プラスチック)
- ◆ 売上は前月水準で横ばい。飲料製品は低調でサプリメントは横ばいであるが、今後発売となる新製品に期待。(食料品)

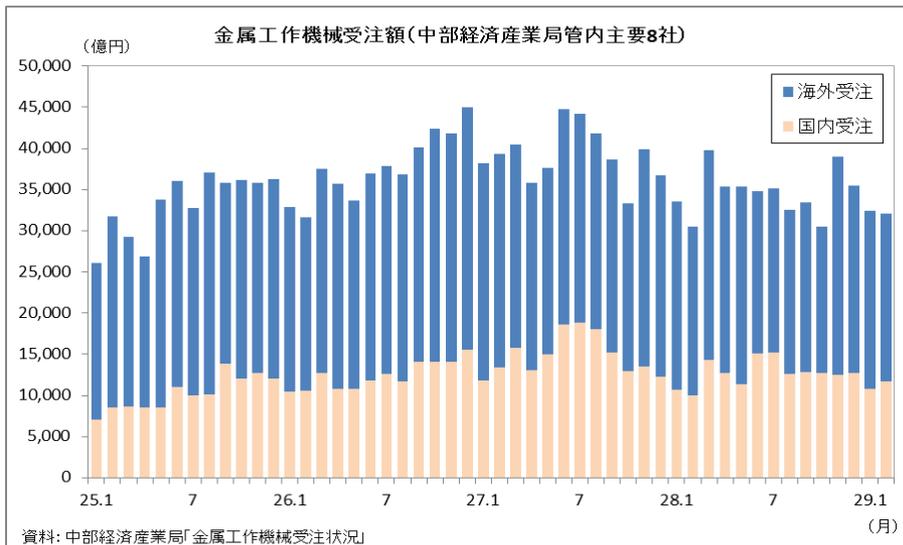
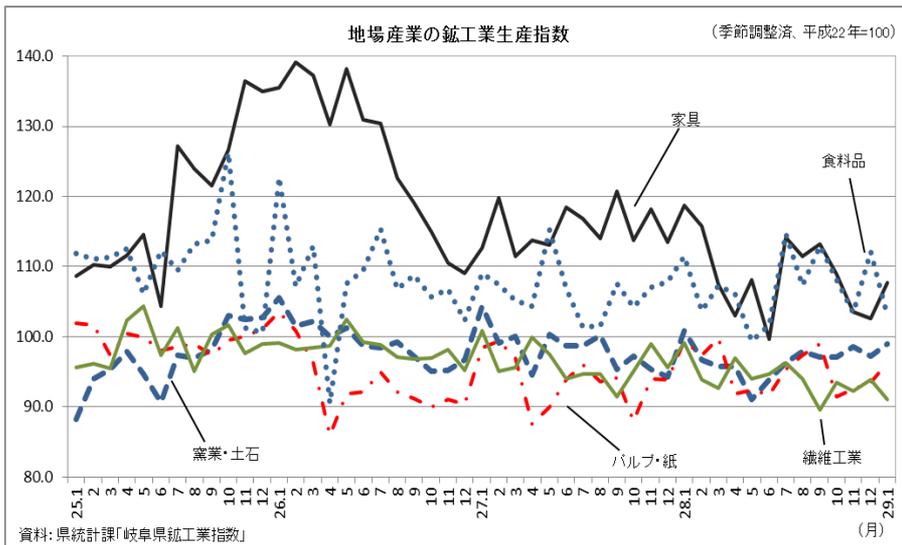
## 製造業-2

○1月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維・食料が減少。その他業種は前月比で上昇した。

○昨夏以降、家具は下降を続けていたが、今月は持ち直しの傾向が見られる。

○2月の金属工作機械受注額は、前月比微減。海外受注が前月比5.2ポイント減少するも、足下は国内・海外ともに底堅い動きとなる。

○前年同月比では、受注額は5.2ポイントの増加となり、18ヶ月ぶりに前年を上回った。

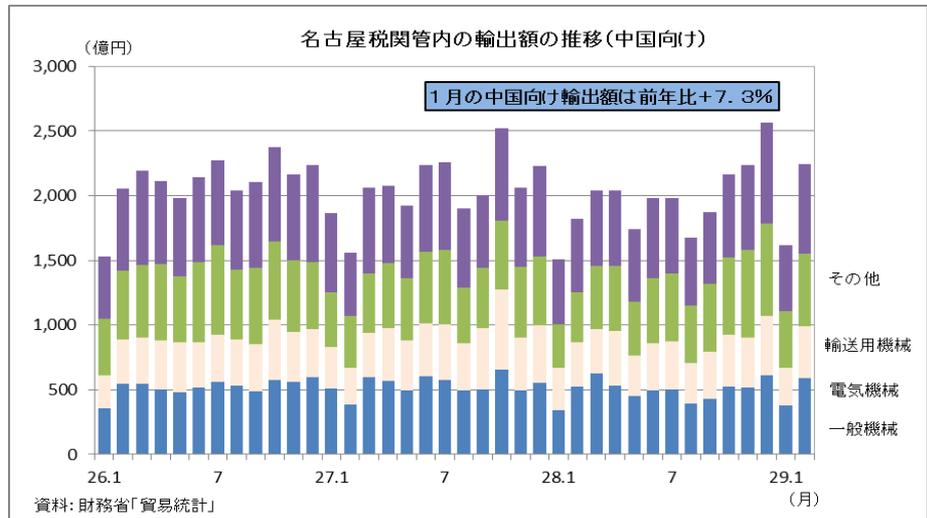
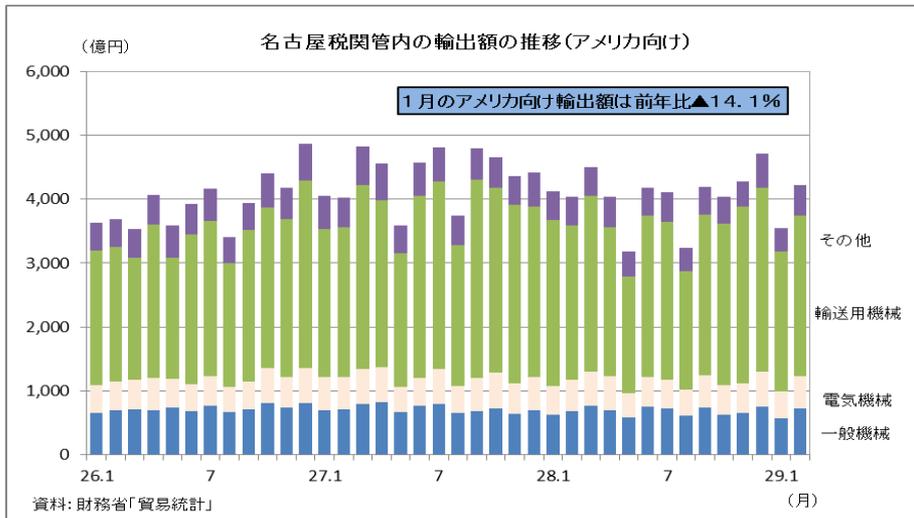
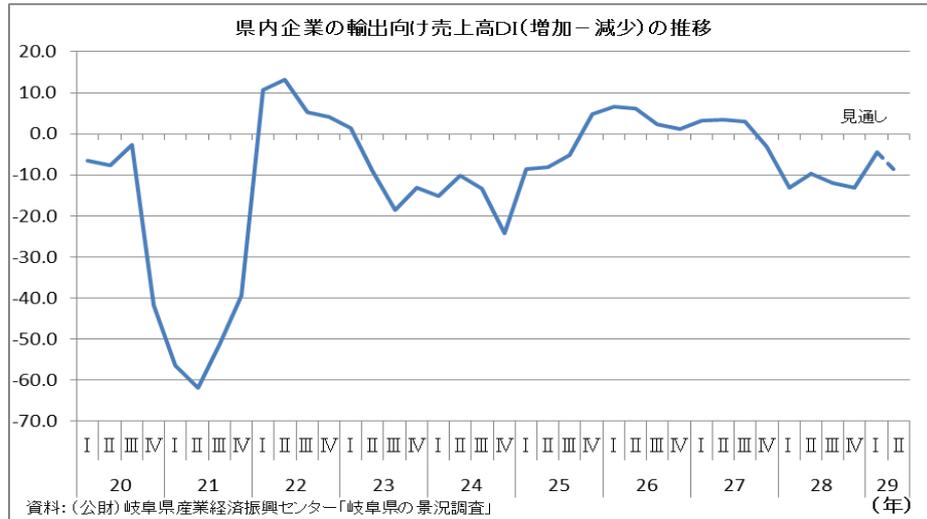
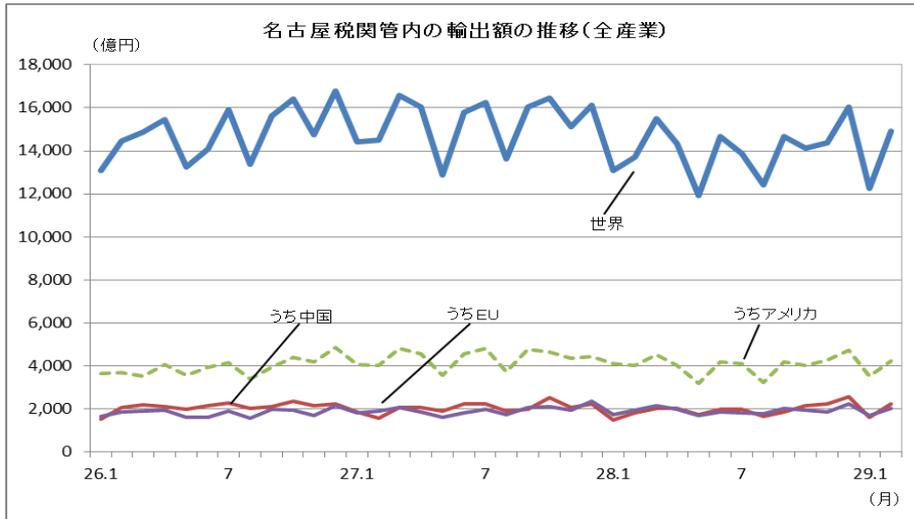


### 現場の動き

- ◆売上は前年度比で同程度であるが、円高傾向が続くとヨーロッパ向けの取引に影響が生じる。(アパレル)
- ◆輸出向けの需要は拡大していることから景況感は上向きであるが、国内需要は萎んだままで上向く要素がない。
- ◆大量生産のニーズが落ち込み規模が小さくなっているため、急な大量発注には対応できない。(以上、陶磁器)
- ◆売上は前年比微増。アメリカ・ロシア向けの貿易の流れが良くなったことが要因。(刃物)
- ◆売上は既存の受注に落ち込みが見られるため、前年と比べて10%ほど減少。(紙業)
- ◆業況は若干改善。積極的に県外に販路を広げ、量販だけでなく地域特産物の開発にも着手。(食品)
- ◆業況は昨年5月以降芳しくなく対前年比80%程度が続いており、2月は96%で少し持ち直しが見られたが、3月は昨年、一昨年ほど伸びておらず、先行きは不透明。(木工)

# 輸 出(名古屋税関管内)

- 2月の輸出額は1兆4,914億円で、前年同月比8.8ポイント増加し15ヶ月ぶりに前年を上回る。
- うちアメリカ向けは、前月の大幅な落ち込みから一転、持ち直しが見られ、全産業で前年同月比増加。
- うち中国向けは、全産業で増加し、全体で同23.4ポイント上昇と大幅な伸びを見せた。
- 29年第1四半期の県内企業の輸出向け売上高DIは、28年第1四半期以降、1年ぶりに改善した。



## 為替・原油価格の動向による影響について

- ◆原材料価格、燃料価格(石油、ガス)が上昇傾向で、この傾向が続けば経営に影響が出る。(輸送機械)
- ◆原材料、燃料費が上昇基調にあるため、利益率を圧迫してきている。(非鉄金属)
- ◆原材料価格の高騰を受け、一部商品にて値上げが予想される一方で、レジ袋等については、従来より少ない原料で同様の強度を保てるように改良を進める。(コンビニ)
- ◆米材は豪雪の影響で今後値上がりが見込まれる。欧州材は製品の不足から強含んでおり、ホワイトウッドは値上がり。ロシア材は松が1千~2千円値上がりするなど輸入価格が上昇しているが、価格転嫁できない状況。(製材)
- ◆昨秋以降の円安基調は業績にはプラスの影響を受けている。(輸送機械、電気機械、窯業ほか)

## プレミアムフライデーへの取組み・影響について(小売業)

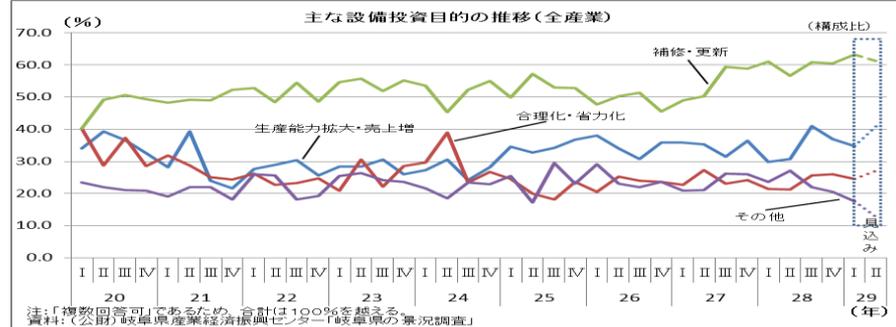
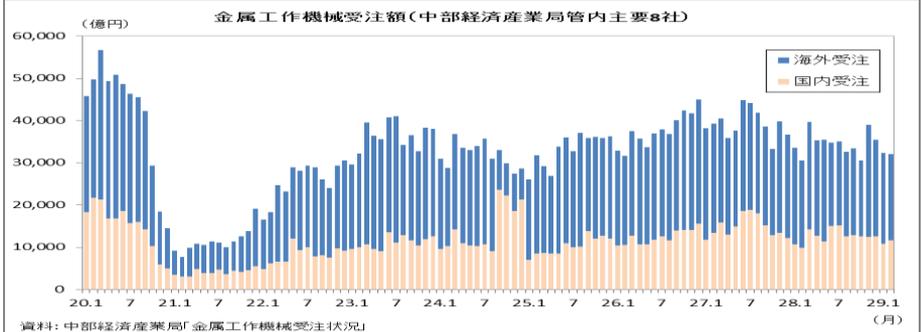
- ◆3月のプレミアムフライデーは31日ということもあり消極的。本格的な実施検討はゴールデンウィーク直前となる4月からとなるのではないかと見られる。(大型商業施設)
- ◆旅行業界や都市圏の商業施設、飲食店では消費喚起キャンペーン等を実施しているが、地方都市では現状では盛り上がりが見られない。(アクティヴG)
- ◆「おでん100円セール」「フライヤー常温惣菜セール」「デリカセール」等を実施し、今後も盛り上げていく。(コンビニ)

## 業界トピックス・トレンドについて

- ◆建機関連は中国の活況を受けて好調だが、政治情勢の影響が懸念されることから政権の動向を注視している。(輸送用機械)
- ◆自動車業界はトヨタを中心に東海地方は好調のようだが、関西は厳しい様子。(輸送用機械)
- ◆トクホ関与成分問題の再発防止を防ぐため、消費者庁は改正トクホ制度の運用を開始し、許可商品の新たな知見を得た場合の安全性、有効性についての報告を義務化した。(食料品製造)
- ◆関の刃物全般において、外注先や協力工場が減っており、納品の遅れなどが生じている。(刃物)
- ◆ミラノサローネ展に出展予定。ヨーロッパ市場の調査を継続し、販路開拓につなげる。(木工)
- ◆国交省の特殊車両の通行許可事務が滞り、許可が下りるのに非常に時間がかかるため、業務に支障をきたしている。(運送業)
- ◆大手運送業者で問題となったが、業界全体としても、荷主と運賃改定などで対等に交渉ができ、労働環境や低賃金などの改善が図られるように望んでいる。(運送業)
- ◆2次・3次業者への社会保険未加入対策の取組みの強化が必要。(建設業)

# 設備投資

- 平成29年1－3月期の設備投資実績は3期ぶりに減少したものの底堅く推移。目的別では、「補修・更新」が高止まりし、底堅い需要が見られる一方で、「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」は相対的に減少した。投資意欲DIは7.8ポイント上昇し投資意欲の高まりも伺える。
- 平成29年2月の金属工作機械受注額は、国内受注が改善し、全体で前年同期比で5.2ポイント増と18か月ぶりの増加に転じており、底堅い動きが見られる。



## 現場の動き

- ◆新工場建設にあたり、岐阜県企業立地促進事業補助金の活用について県企業誘致課に相談。(輸送用機械)
- ◆生産増加に伴い新工場建築を予定。◆塗装ブースを設置し、成型機を6月に更新予定。(以上、プラスチック製品)
- ◆国の公募補助金が採択されず、自力では困難なため、当面設備投資は断念。(木材加工)
- ◆東京のミッドランドに新しいショールームを開設。生産性・歩留り工場目的で新たな設備を導入予定(木工)
- ◆モノづくり補助金の採択を受け、透かし和紙の設備を新たに導入予定。(紙業)
- ◆飲食エリアのリニューアルを計画。(小売業:大型商業施設及び専門分野)

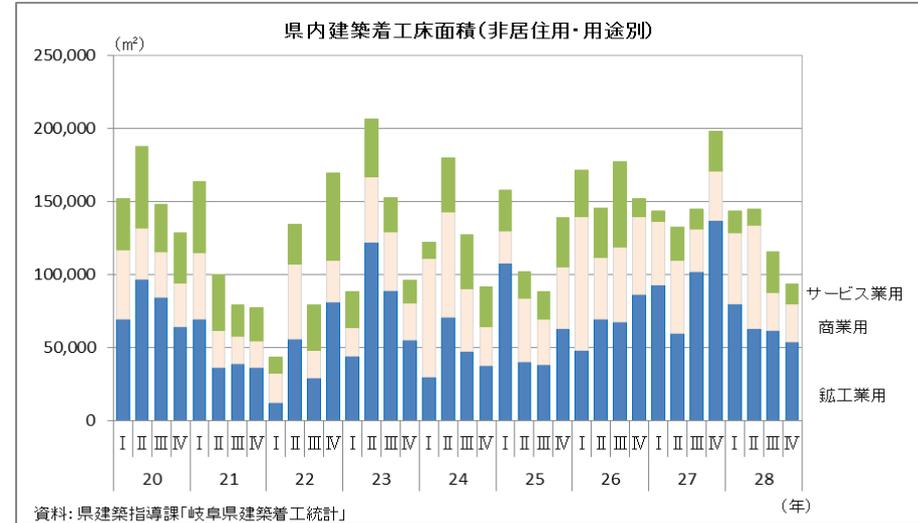
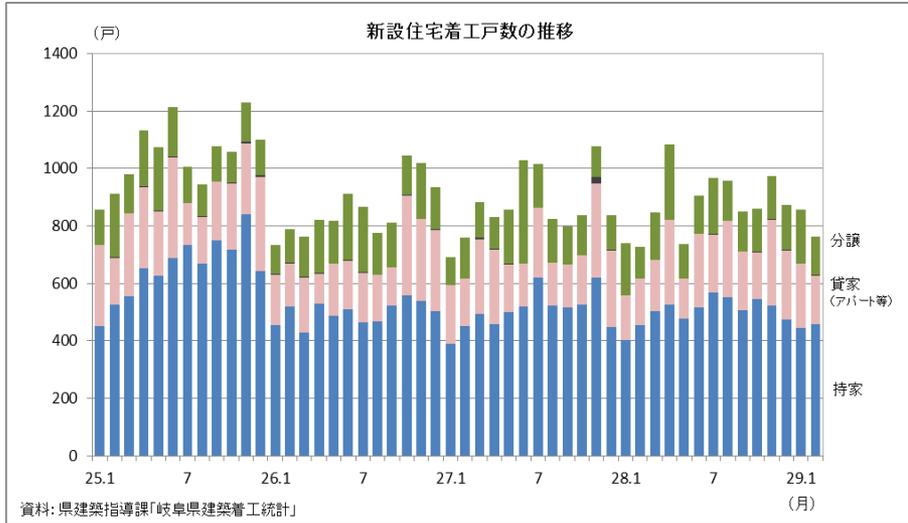
# 住宅・建築投資

○2月の住宅着工戸数は、季節要因もあり前月比11.3ポイント減少。

○一方で、前年同月比で見ると、全体で4.5ポイントの増加し、3ヶ月連続で前年を上回っており底堅く推移している。

○平成28年10-12月期の建築着工床面積は、鉱工業用がマイナス寄与し、全体では前年同期比52.8%減となる。

○直近5年でみると、平成27年第4四半期をピークとして減少傾向が続いている。

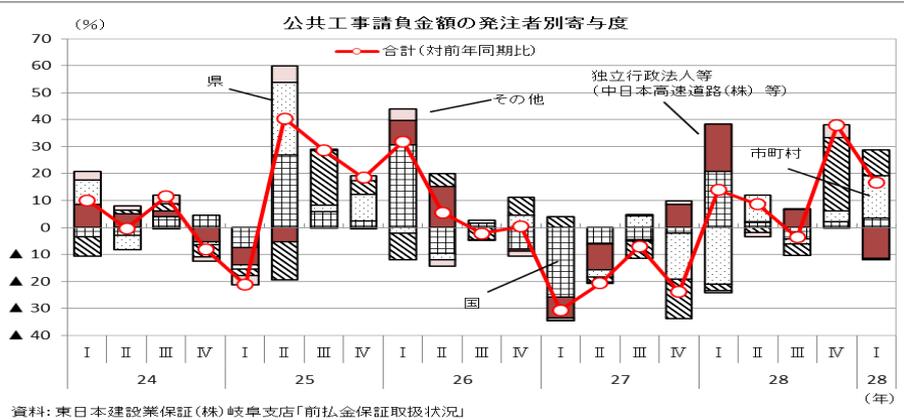
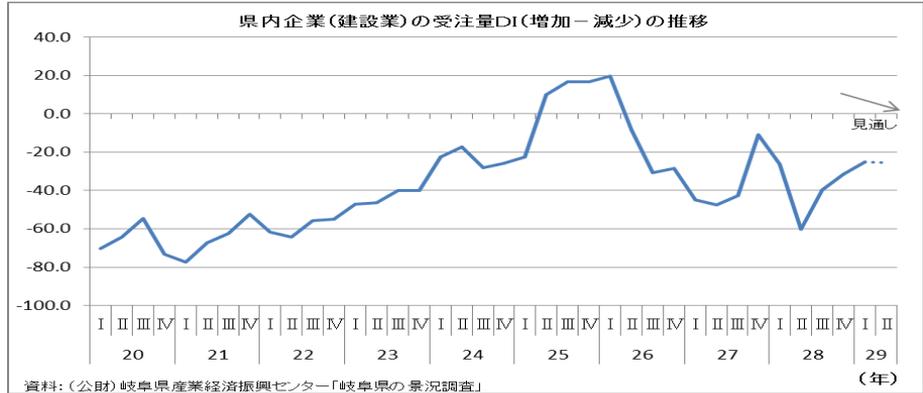
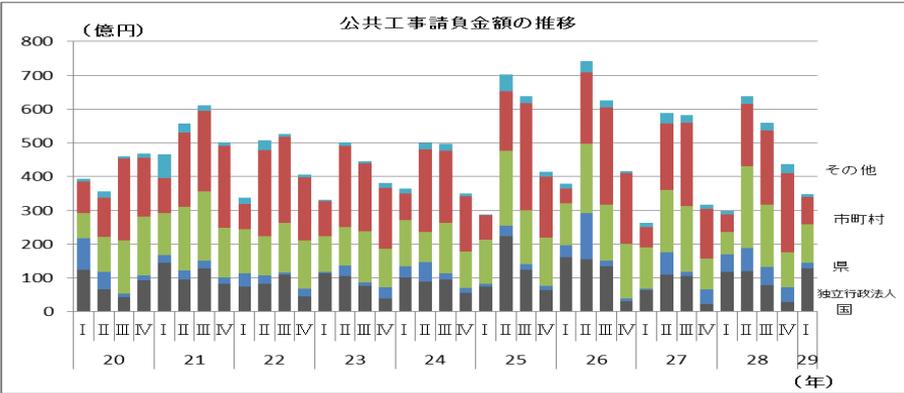


## 現場の動き

- ◆受注は前年同月比10%程度増加。昨年は消費増税延期による購入の先延ばし感があり客足が伸びなかったが、その影響が減少し少しずつ消費者が動き出している。(住宅関連)
- ◆東海地域は価格が上がらないため木材が出てきていない。価格はスギ・ヒノキとも横ばい。合板は品薄状態。(製材・住宅)
- ◆3月は市場の動きが悪く木材が動いていない。ハウスメーカー系やマンションは着工戸数が増えているが、在来工法がなかなか伸びていない状況(製材)
- ◆プレカットは公共物件の大型受注があり、現在は大変多忙だが今後は受注が減少する見通しで、一般住宅用は依然受注が少ない。オリンピック需要は大手企業が集成材で対応するため需要は見込めない。(木材市場)
- ◆原木のストック量は、ほとんどない状況。例年出材が少ない時期ではあるが、今年は特に低調となっている。A材B材の需要は引き続き旺盛であるが、出材が不足。C・D材の需要は良好で出材も多い。(森林組合)

# 公共工事

- 平成29年1-3月期の公共工事請負金額は、国、県、市町村がともに前年同期比で増加。特に市町村が4割近い伸びを見せ、全体では16.6ポイント増となり2期連続で前年を上回った。
- 平成29年1-3月期は受注量DI、採算DIはともに上昇したものの、見通しは不透明。



## 現場の動き

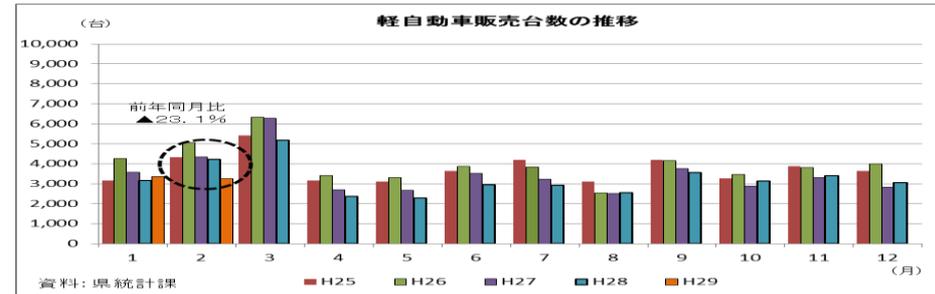
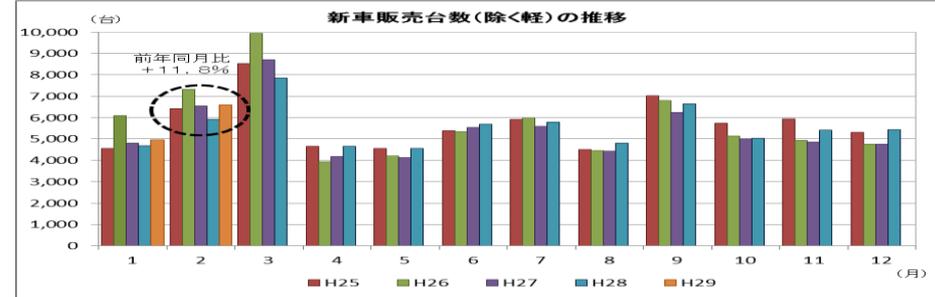
- ◆県、国工事に関わらず、昨年並みかそれ以上の発注案件があった。
- ◆賃上げについては横並びの傾向であるが、業界全体として上昇局面である。
- ◆新卒の技術者については、内定を多く出したものの辞退が多く、雇用数は減少した。
- ◆ICT活用工事の試行に対応するため、ドローンによる自社測量に取り組む企業が出ている。(以上、建設業者)

# 個人消費(流通・小売)

- 1月の大型小売店販売額は、前年同月比1.1%増と4ヶ月連続プラスを堅持した。
- 販売額の前年増減率は、コンビニがプラス圏で安定推移する一方、大型小売店の販売額は伸び悩んでいる様子が伺える。



- 2月の新車販売(除く軽)は、前年同月比11.8ポイント増と11ヶ月連続で増加。軽自動車は、同23.1ポイントの大幅な落ち込みとなり、5ヶ月ぶりの減少となる。

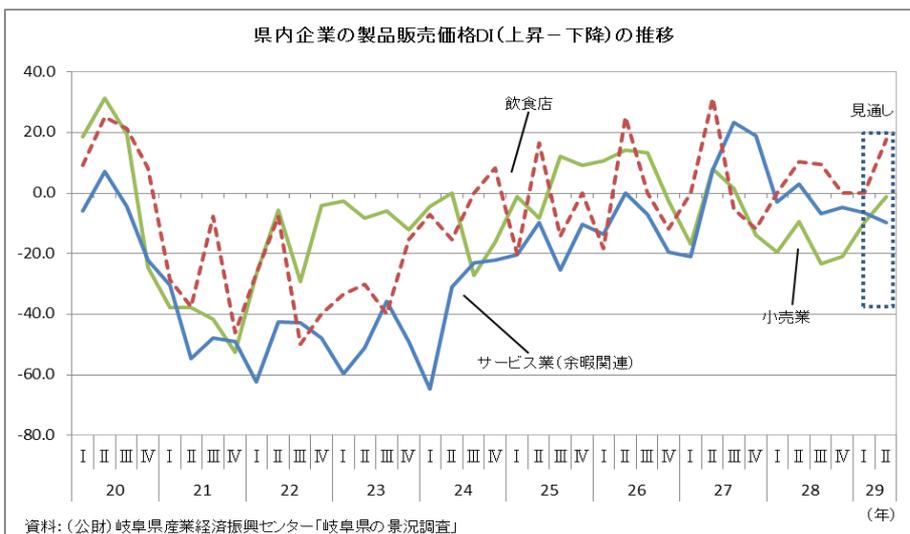
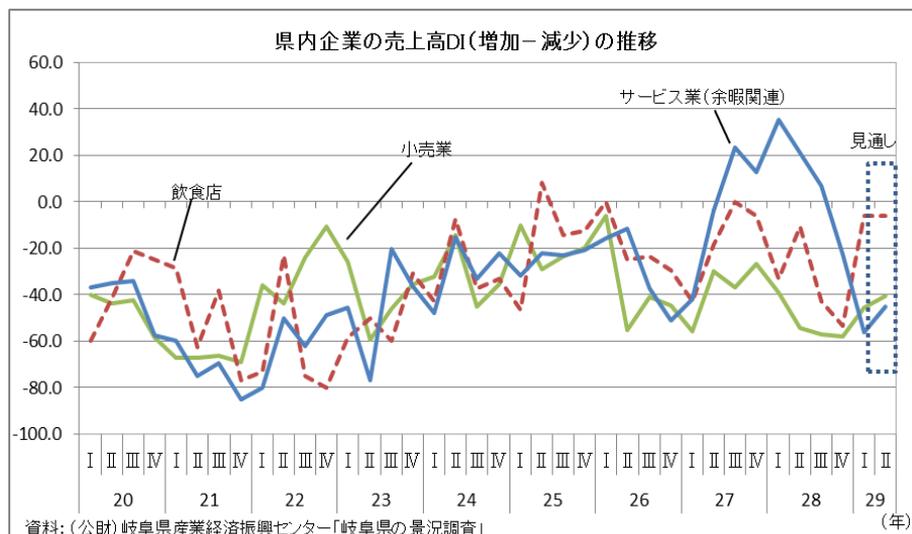


## 現場の動き

- ◆グランドリニューアルオープンにより、オープン4日間の売上・来客は、前年同期比で140%程度。新車受注は前年同月比113%、サービスは同102%、映画は同115%となる。(大型商業施設)
- ◆売上は前年同月比101%、客数は同103%、客単価は98%。(小売スーパー)
- ◆主力の中食が牽引、売上は前年同月比136%。ブランド転換店は転換前より客数・売上ともに改善。(コンビニ)
- ◆売上は前年同月比102%、客数は同105%、客単価は横ばい。新生活関連の売り上げが例年よりよくないが、店舗改装によるワンフロア化により接客を重視した結果、売上増加につながった。(家電)
- ◆売上は前年同月比微増。貨物種別では、太陽光パネルは堅調だが、この時期に集中する法人の引っ越しが昨年比で1割程度減少している。(運送業)

## 個人消費(流通・小売)ー2

○平成29年1ー3月期の売上高DIは、飲食店が大幅に改善し、小売業にも改善が見られたが、サービス業(余暇関連)が前月に続き大幅に悪化。過去5年で最も低い水準となる。販売価格DIは飲食店、サービス業(余暇関連)で横ばいもしくは微減となる一方、小売業は8.4ポイント改善した。



### 現場の動き

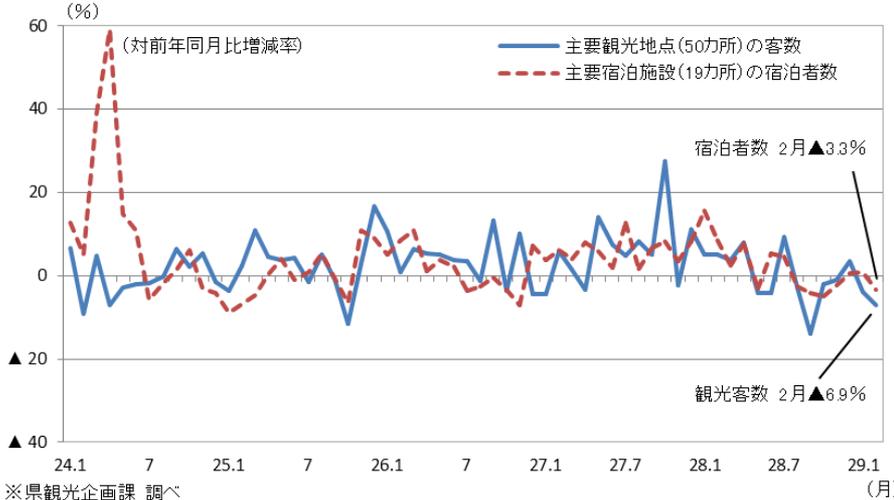
- ◆入館者数は催事での集客もあり前年同月比で上回る見込みだが、館全体売上としては前年同月比で下回る。
- ◆生鮮食料品スーパー、物販、サービス、ファッションは前年同月比軟調に推移。(以上、アクティブG)
- ◆人気アパレルブランドの直営店オープンにより、若い客層が増えている。
- ◆婦人服店の売上は前年同月比100%で推移したが、寒い日もあり、春物の購買意欲の刺激には至らなかった。
- ◆飲食店の売上は同100%。梅まつりや新店舗のオープンにより人通りが増えた。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆和菓子店の売上は前年同月比106%で、セール内容の充実と、チラシによるPRが奏功した。(大垣市商店街)
- ◆春休みに入り日本人の家族連れ、学生が増加。外国人観光客は多いが、商店街への客足に減少が見られる。
- ◆売上は、陶器・土産店が前年同月比85%、衣料品店が同112%。(以上、高山市商店街)
- ◆子供服店の売上は前年同月比98%。商品購入の単価が下がっており、節約志向が見受けられる。
- ◆酒類販売店の売上は同100%。3月に入り送迎会、総会等の飲食店向けが増加するとともに、限定酒の販売が伸びている。(以上、多治見市商店街)

# 観光

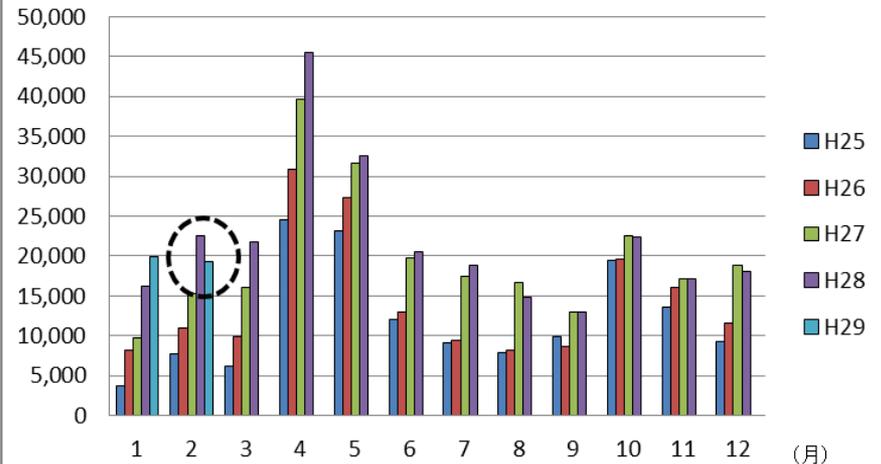
- 主要観光地における2月の観光客数は、前年同月比6.9%の減と2ヶ月連続で前年同月を下回った。
- 同様に主要宿泊施設における宿泊者数も同3.3%の減と3ヶ月ぶりに前年を下回った。

- 2月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、前年同月比の増減率では、1月が同23.5%と大きな伸びだったのに対し、2月は一転して同14.6%の減少となった。

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客数(対前年比推移)



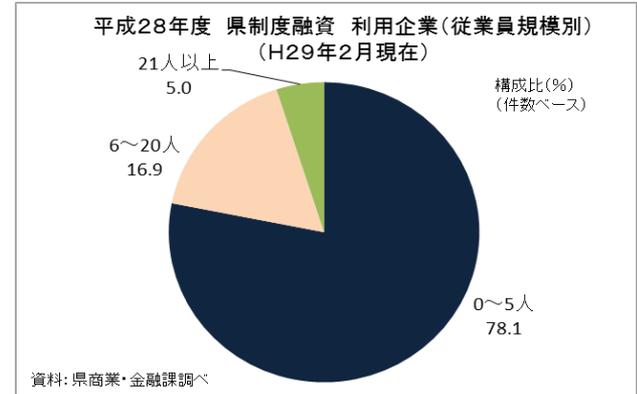
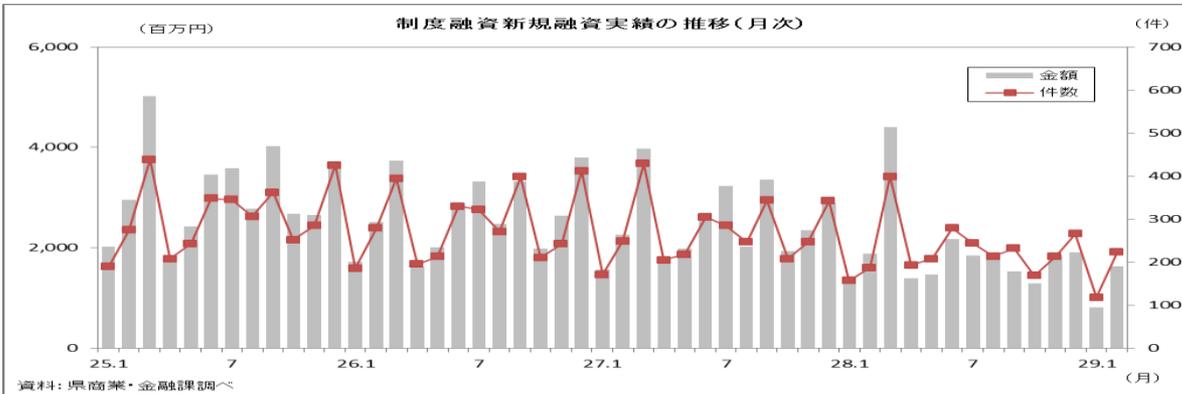
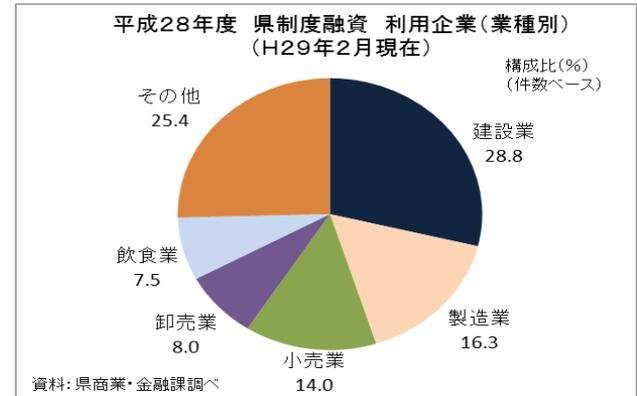
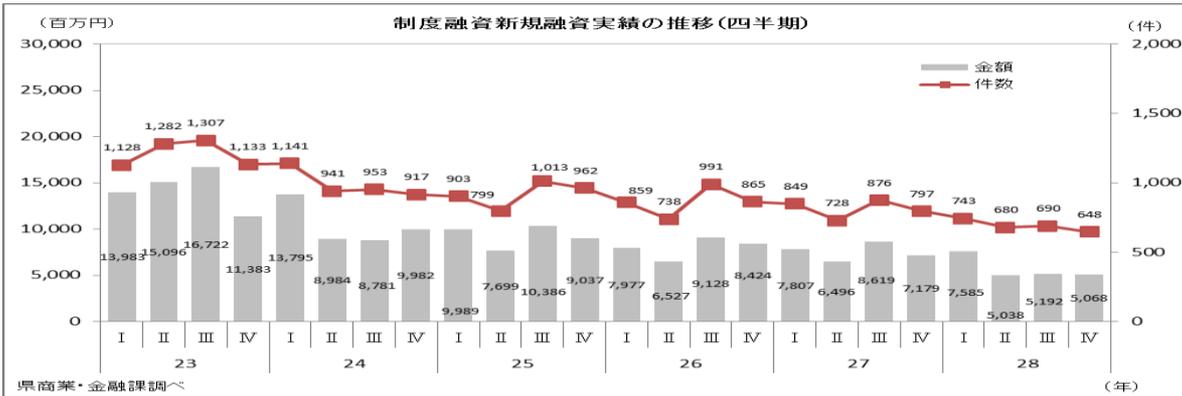
## 現場の動き

- ◆日の並びの関係で休日の数が前年に比べ少なかったこともあり観光地、宿泊施設ともに減少となった。(観光地・宿泊施設の総括)
- ◆インターネット予約は前年同様に好調。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆中国のお客様が激減。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆台湾、香港のお客様が増加。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆タイ・中国・台湾からのお客様が増加しており、北米・香港のお客様が減少した。(高山市内の宿泊施設)
- ◆東アジアの団体旅行は減少し、個人は国内外ともに好調。(高山市内の宿泊施設)
- ◆台湾、香港が中心だが、欧米系も徐々に個人旅行を中心に増えつつある。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

○2月の制度融資実績は、金額が1,634百万円で前年同月比13.2%減となり、11ヶ月連続して前年比2桁減となった。一方で件数は224件で同19.8%増と15ヶ月ぶりに前年比で増加に転じるなど、借入金額の小口化が顕著になっている。

○建設業・製造業・小売業の利用が約6割を占め、従業員5名以下の零細企業が約8割を占める。

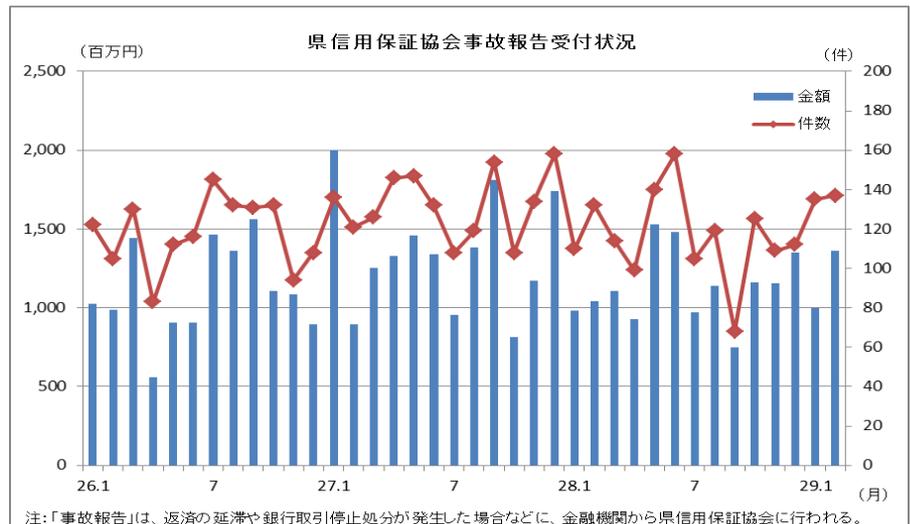
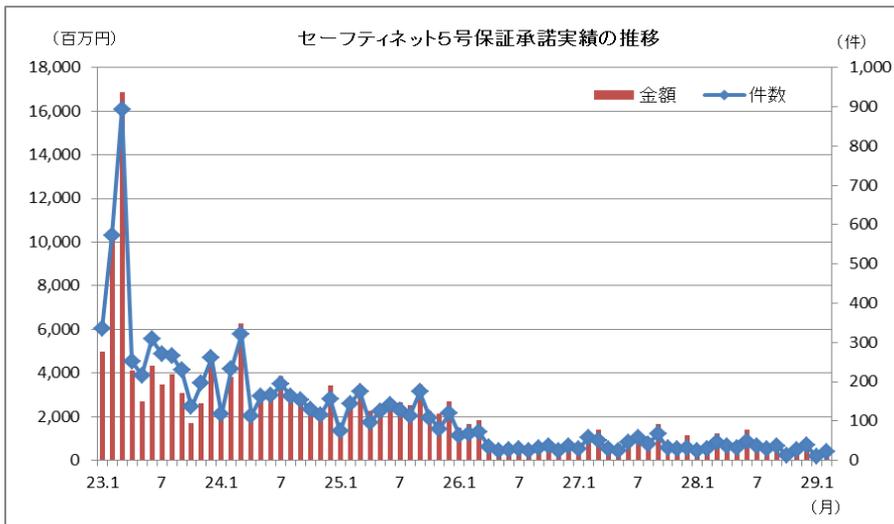
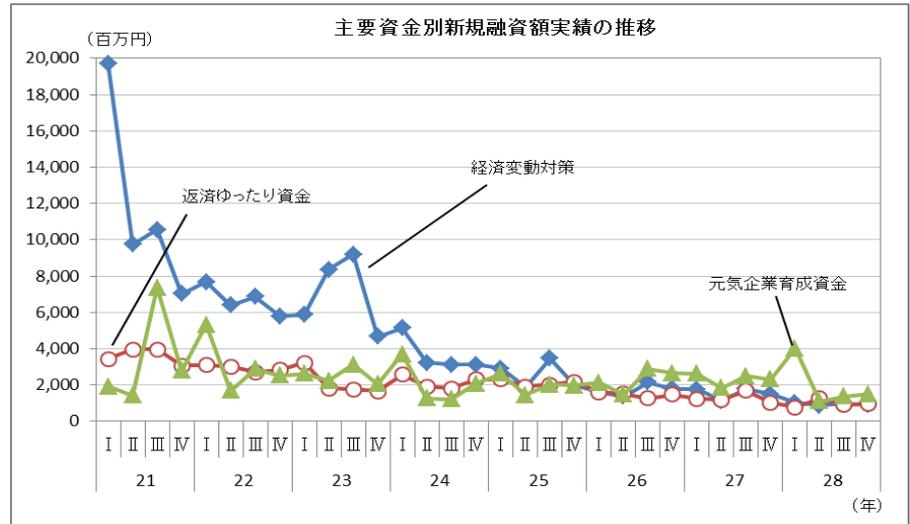
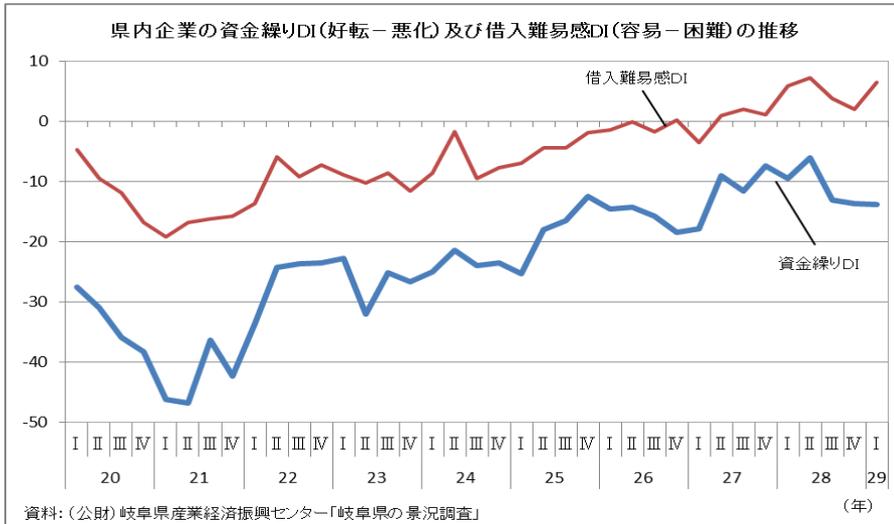


## 現場の動き

- ◆ 全体的にはほぼ横ばい状態が続いているが、個別業種では自動車関連で更新需要が出ている。
- ◆ 設備投資については更新目的が主であるが、一部で太陽光発電やアパート建設の引き合いがある。
- ◆ NHKドラマや、養老関係のイベント開催による波及効果を期待している。(以上、金融)

# 資金繰りー2

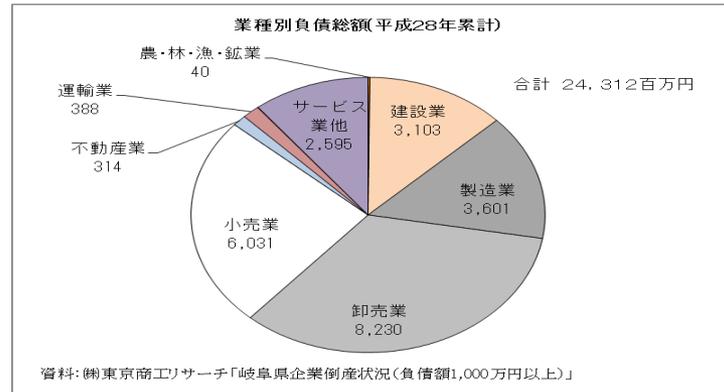
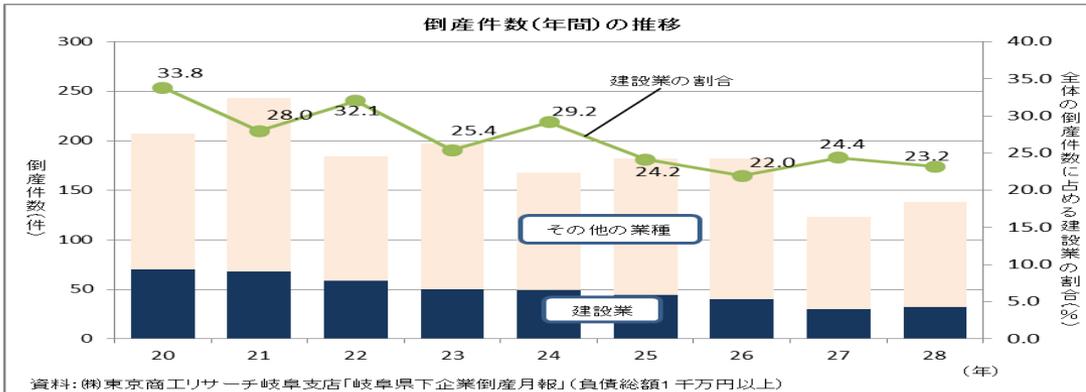
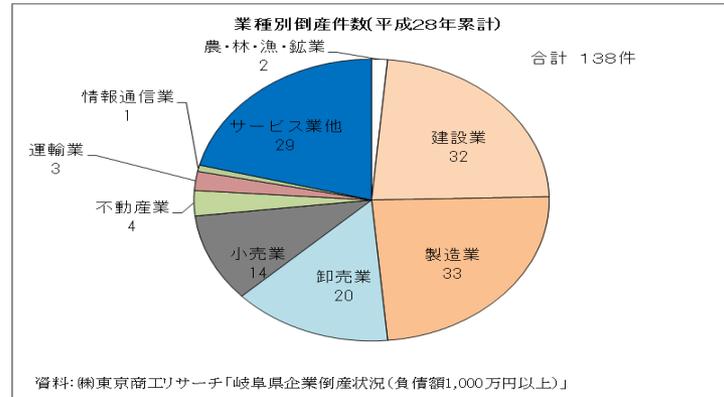
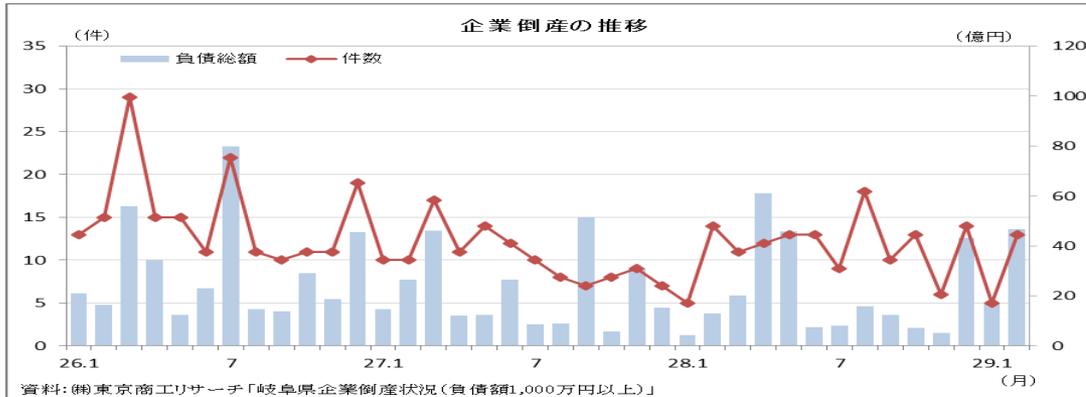
- 平成29年1－3月期の借入難易感DIは、4.5ポイント上昇し、3期ぶりに前期を上回った。
- 平成29年1－3月期の資金繰りDIは0.1ポイント低下し、3期連続で前期を下回った。
- 事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が137件で前年同月比+3.8%と2ヶ月連続で増加。金額も1,363百万円と同+31.1%の大幅な増加となる。



# 倒産

○2月の倒産件数は前年同月比で1件減少し13件、負債総額は同258.7%増の46億56百万円となる。

○建設業、製造業、卸売業で、倒産件数、負債総額ともに6割以上を占める。



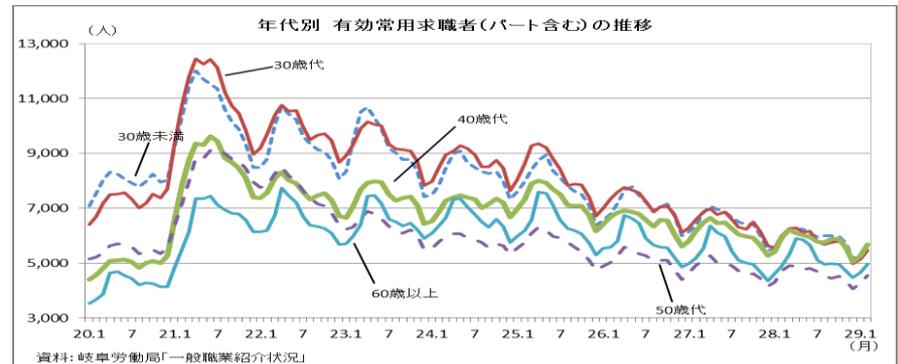
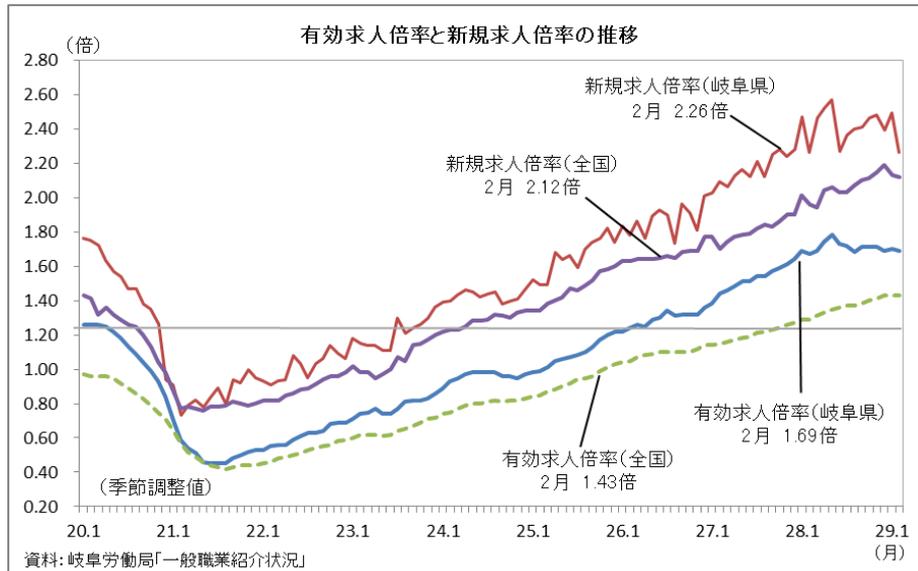
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆2月の倒産件数は13件と前年同月比で1件減少したものの、負債総額はゴルフ場運営企業の大口倒産(32億円)の発生により大幅増加となったが、これを除けば零細規模の倒産が主体である構図に変わりはない。
- ◆上場企業を中心に平成29年3月期決算は好決算となる見通しが高く、景況感全般としてはそれほど悪化している様子はないものの、恩恵が中小企業にまで波及しているかは微妙なところ。世界経済の先行きに不透明感が漂っていることもあって、体力の弱い企業から一定数の倒産発生は避けられないといえる。

# 雇用

- 2月の有効求人倍率は1.69倍と前月より0.01ポイント下降した。
- 2月の新規求人倍率は2.26倍と前月より0.23ポイント下降した。

- 2月の雇用保険受給者人員は前年同月比46.4%減と44ヶ月連続で前年を下回る。

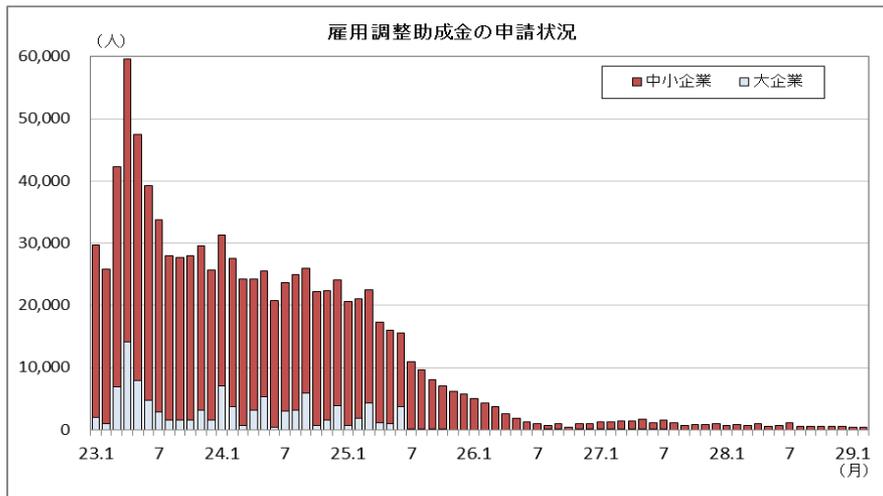
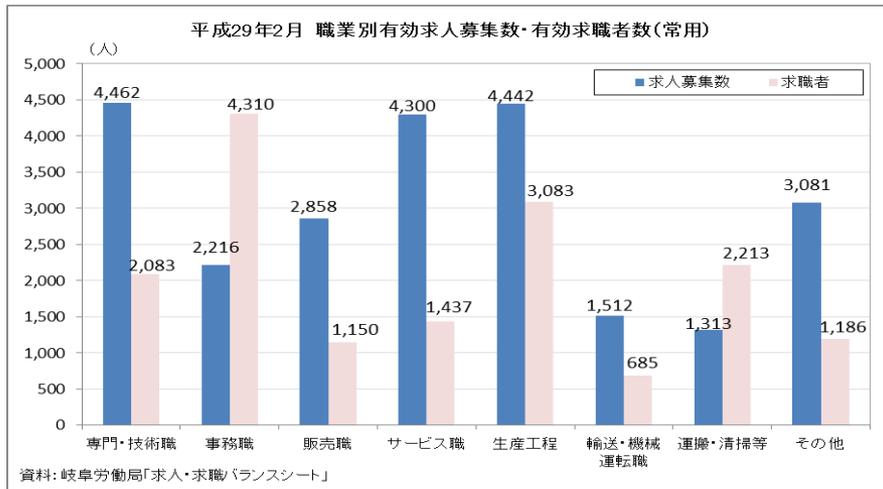


## 現場の動き

- ◆大卒理系の人材確保に非常に苦慮している。大手に企業に流れる傾向が強い。(輸送用機械、非鉄金属ほか)
- ◆中国、マレーシアなどの留学生も若干採用しているが、数年で母国に帰るケースが多い。(輸送用機械)
- ◆外注先の高齢化により、内製化せざるを得ない部分が増えてきており人手が足りないため、中国からの実習生を現地で面接を行ったうえで5名ほど受け入れる予定。(生産用機械)
- ◆営業や現場監督といった即戦力となる人材が集まりにくい。(住宅関連)
- ◆小売業関係全般で人手不足感がある。特にアルバイトの確保で非常に苦慮。(大型商業施設、スーパー、家電、コンビニ)
- ◆東北からの季節雇員がストップした。関東・東北での仕事量増加の影響と考えられる。(建設業)
- ◆小売業、建設業、運送業関係などを中心に人手不足が慢性化しており、特に小売業が厳しい。(金融機関)

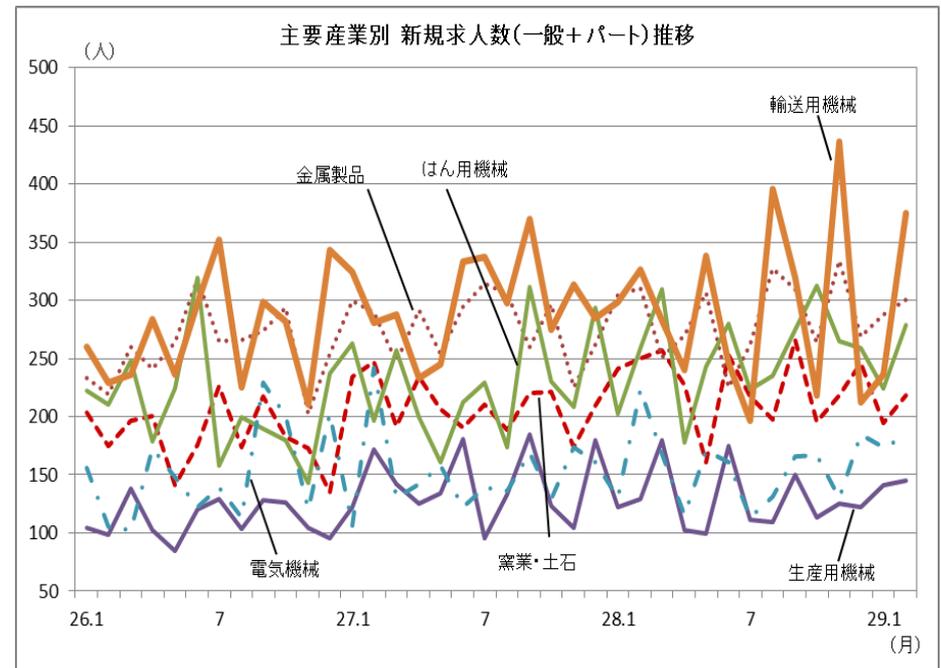
# 雇 用(職業別)

○専門・技術職、販売職、サービス職、運転職で求人倍率が2倍を超える一方で、事務職、運搬・清掃職の求人倍率は0.6倍以下に留まるなど、職業間において求人と求職にミスマッチが生じている。



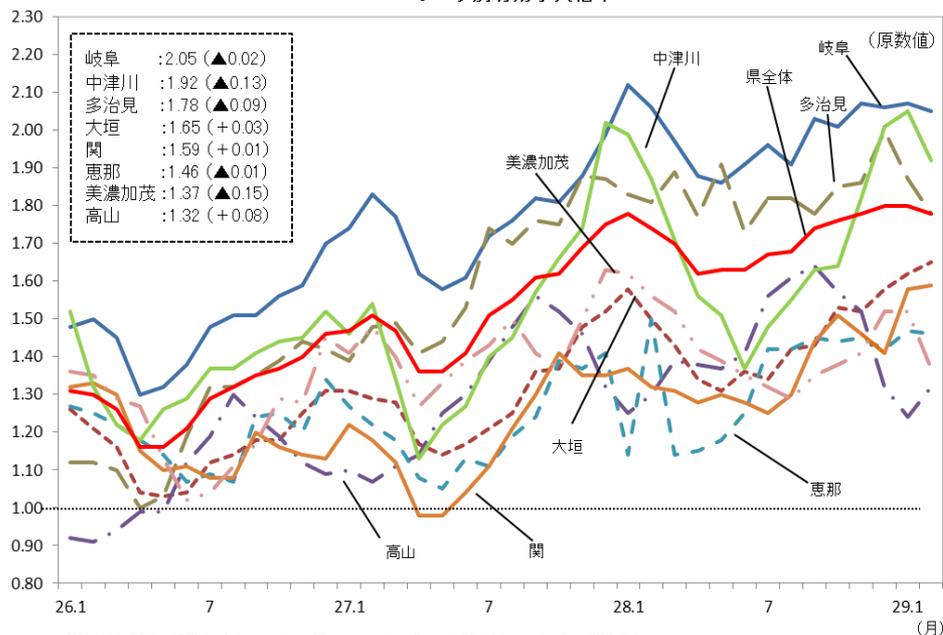
○2月の主要産業における新規求人数は、前年同月比で輸送機械15.0ポイント増、生産機械12.4ポイント増と2桁増となる一方、電気機械17.9ポイント減、窯業・土石12.8ポイント減と各々2桁減となるなど2極化が際立っている。

○前月比で見ると、全産業において新規求人数が増加した。



# 雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



注1: 大垣所分は揖斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む  
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○2月のハローワーク別有効求人倍率は、大垣、関、高山で上昇が見られるが、そのほかの地域は下降となっている。

## 現場の動き(先月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は増加するも、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク中津川>

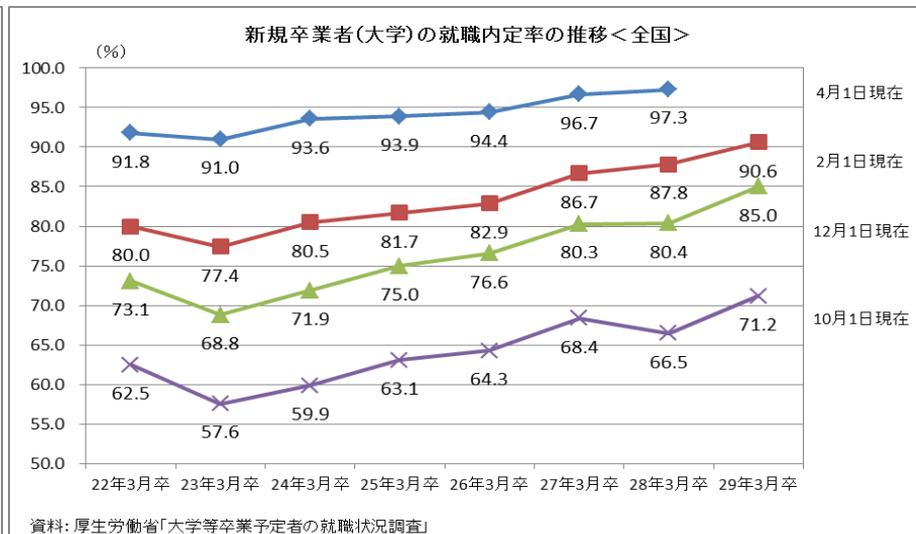
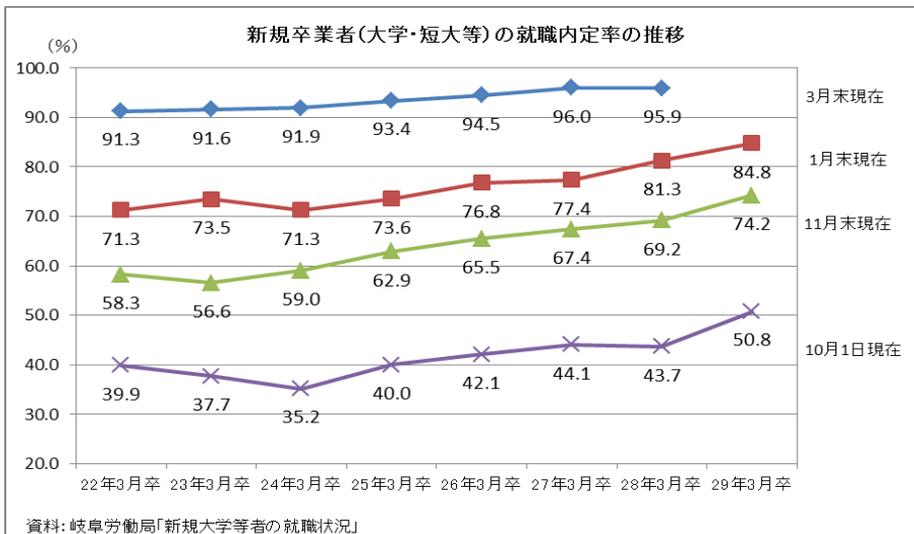
- ◆求人者数はやや減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <窓口の様子> ※前月比

- ◆高山や美濃加茂はやや混雑している。
- ◆岐阜、大垣、多治見、恵那、関中津川は先月並み。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○1月末時点の大学・短大卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比3.5ポイント増の84.8%となり、直近8年で最も高い内定率となる。



## 現場の動き(平成29年3月卒の内定状況等)

### 【岐阜県内の主な大学】

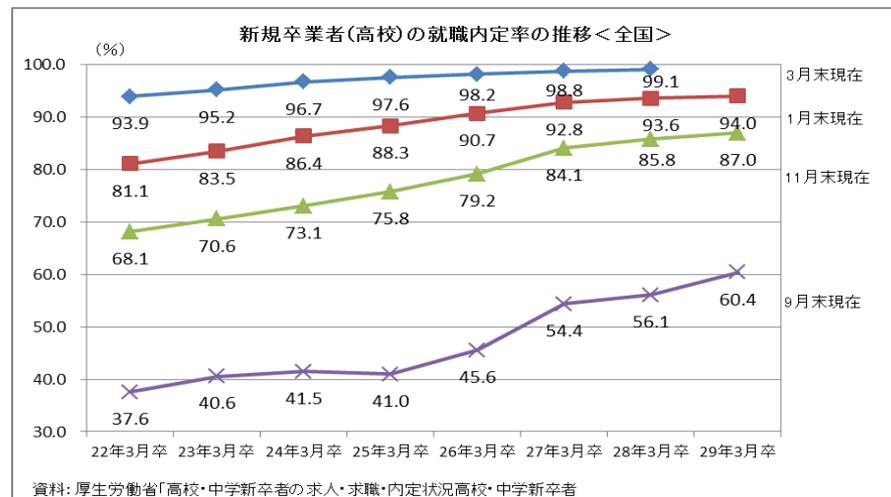
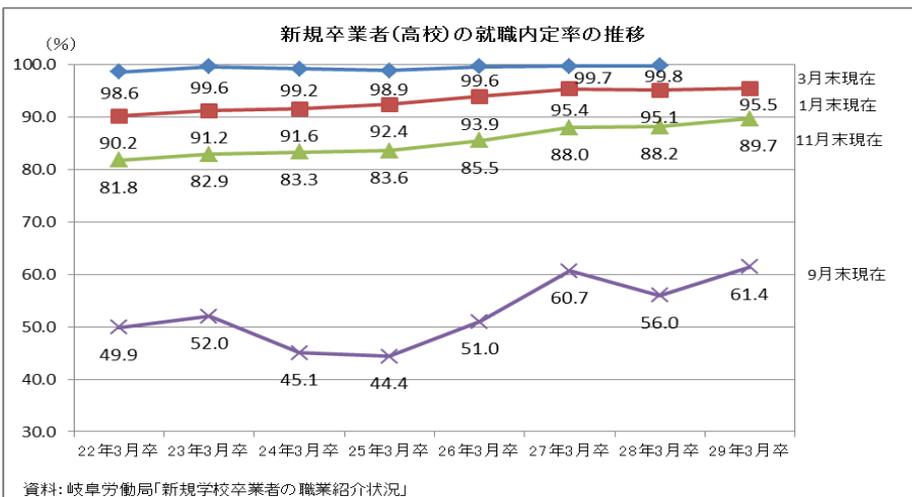
- ◆ 内定は、学部で90%、修士で94%程度。うち県内就職率は、学部で36%、修士で16%程度となる。18卒の動きは、個別面談が大幅に増加し予約が取れない状況が続いており、企業展への積極的な参加傾向も見られる。
- ◆ 内定は99%程度であり、未内定者は残り3名程となる。18卒の就活状況は、合同企業説明会への参加やキャリアセンターへの個別相談が中心。
- ◆ 内定は92%程度で前年度より好調。18卒は合同企業説明会やエントリーを開始。キャリアセンター活用や個別相談が増加。

### 【愛知県内の主な大学】

- ◆ 内定は96%程度(2月末)で推移。
- ◆ 内定は85%程度だが、卒業式での聞き取りがまだ反映できておらず増加が予想される。18卒は合同説明会への参加やエントリーシートの添削がメインだが、すでに面接まで選考が進んでいる学生も出ている。
- ◆ 内定は91%程度。学内会社説明会は昨年と比べて参加学生の人数が増えている。

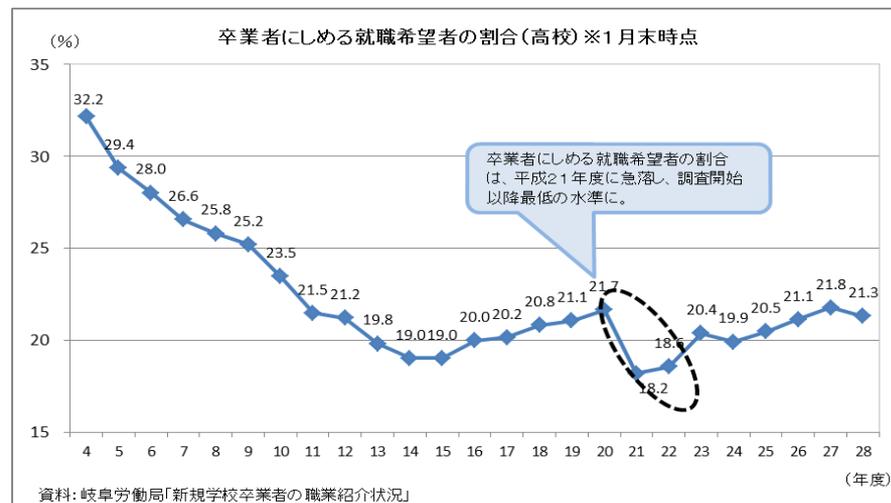
# 雇 用(高校新卒者の就職)

- 1月末時点の高校卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比0.4ポイント増の95.5%となり、直近8年で最も高い内定率となると同時に、24年ぶりの高水準となる全国の就職内定率を上回っている。
- 卒業者における就職希望者の割合は4期ぶりに低下した。



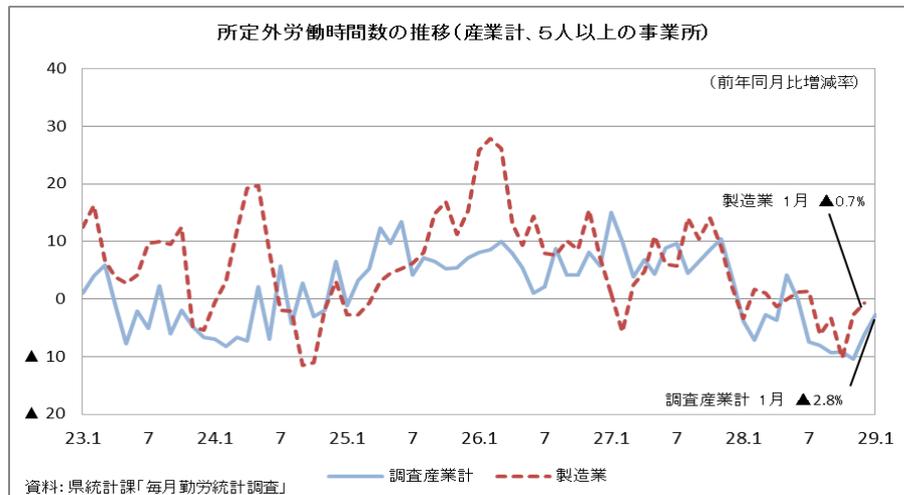
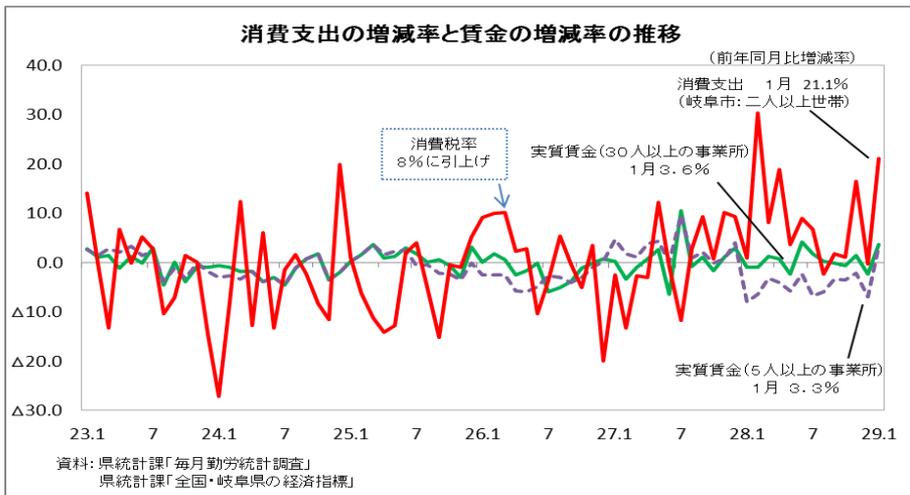
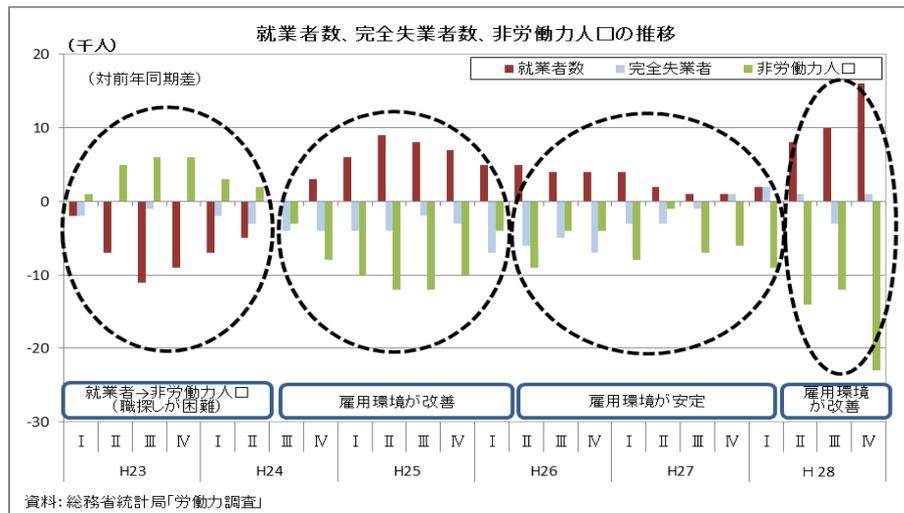
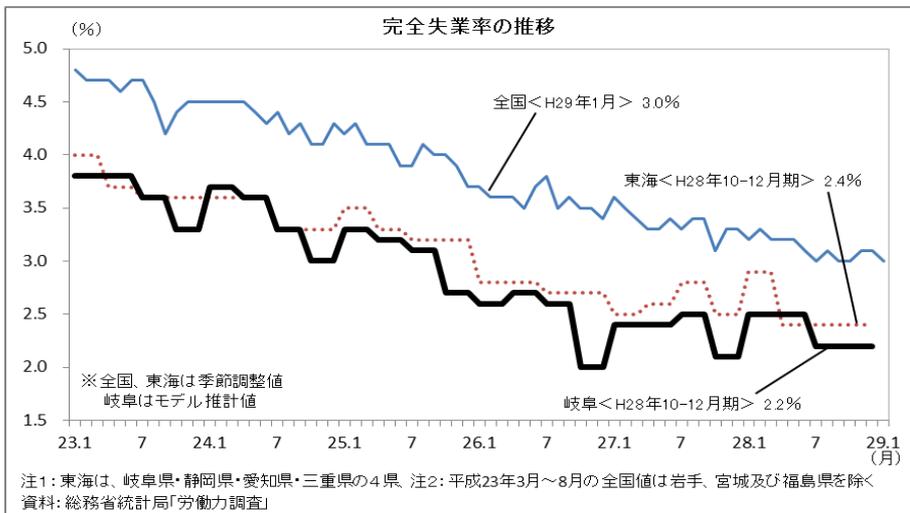
## 現場の動き(H29.3卒の求人・内定状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人、内定はともに増加。
- <ハローワーク大垣> 求人、内定はともに横ばい。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。内定は横ばい。
- <ハローワーク高山> 求人は増加。内定は横ばい。
- <ハローワーク恵那> 求人は増加。内定は横ばい。
- <ハローワーク関> 求人は増加。内定は横ばい。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人、内定はともに増加。
- <ハローワーク中津川> 求人、内定はともに増加。



# 雇 用(完全失業率等)

- 平成28年10－12月期の完全失業率は2.2%となり、依然として全国に比べて低い水準にある。
- 1月の賃金増減率は、事業所規模問わず前年同月比増加、消費支出は季節要因もあり前年比21.1%の高い伸びとなる。
- 1月の所定外労働時間数は、製造業および調査産業全体ともに2ヶ月連続で前月比で増加した。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、一部の業種で生産の弱含みが見られるものの、輸送機械（主に自動車産業）は昨年来堅調に推移しており、はん用機械や電気機械にも持ち直しの動きが見られ、全体としては上げ下げを繰り返しながらも持ち直しを見せている。
- 地場産業は、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合、昨秋からの円安による原材料費高騰など厳しい状況が続く中、一部に生産の持ち直しが見えはじめている。
- 為替・原油・原材料の動きは、昨秋以降の円安により輸出企業の多い東海圏では、製造業を中心に企業収益は業績の上振れが期待されている。一方で、原油価格や原材料価格の高騰に伴い、収益を圧迫される企業も徐々に増え始めている。
- 個人消費は、大型小売店等の売上前年比増減率が足下、プラス圏で推移しており、新車販売台数についても持ち直しの動きが継続している。但し、実質賃金の増加への期待が乏しいことから節約志向が続き、長期的にみると消費回復への足取りは重い。
- 観光は、日の並びの関係で休日の数が前年より少なく、観光地、宿泊施設ともに減少となった。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は良好といえる。但し、多くの業種では人手不足感が拡大するとともに、業種間における求職と求人のミスマッチも今後の課題である。
- 企業の資金繰りは、製造業で改善が見られるが、全体としては昨年年央から悪化傾向が継続している。借入難易感は、製造業・非製造業ともに改善している。